長野県総合計画審議会議事録

１　日　時：平成19年（2007年）９月13日（木）午前10時から12時まで
２　場　所：長野県庁３階 特別会議室
３　出席者
委員：小宮山淳会長、有吉美知子委員、伊藤かおる委員、太田哲郎委員、近藤光委員、滝澤修一委員、花岡勝明委員、平尾勇委員、古田睦美委員、細川佳代子委員、松岡英子委員、松下重雄委員、若林甫汎委員、鷲澤正一委員
専門委員：池田こみち専門委員、遠藤守信専門委員、北原曜専門委員、樋口一清専門委員、松永哲也専門委員、横道清孝専門委員
長野県：企画局長 和田恭良、企画課長 岩崎弘、政策評価課長 原山隆一、企画課企画幹兼課長補佐 佐藤則之ほか
４　議事録
（進行：企画課 佐藤企画幹）
定刻になりましたので、ただいまから長野県総合計画審議会を開会いたします。
私は議事に入るまでの間、進行を務めます企画課の佐藤でございます。よろしくお願いします。
最初に、出席状況についてご報告いたします。本日、藤原委員は所用のため欠席する旨の連絡がございました。そのほかの委員14名の皆様にご出席をいただいておりますので、本審議会条例第６条の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。
なお、専門委員の皆様につきましては、６名全員の皆様にご出席をいただいております。
次に資料の確認をお願いいたします。お手元の配布資料一覧をご覧ください。本日の資料は、資料１から資料７でございます。いずれも事前に送付申し上げてございます。なお、送付後答申案の本文との関連で、語句の修正が一部ありましたので、その訂正版を机の上に置かせていただいております。よろしくお願いいたします。不足等ございましたら、係の者が伺います。お知らせ願います。
よろしゅうございましょうか。
それでは、これより議事に入りたいと思います。小宮山会長さん、議事の進行をよろしくお願いいたします。

（小宮山会長）
委員の皆様方にはご多忙の中、本日も藤原委員を除く全員がご出席いただいているということで、本当にありがとうございます。委員の皆様方にはご多忙の中を、これまで６回にわたる審議会にご出席をいただきまして、大変ご協力を頂戴してまいりました。本当にありがとうございました。
さて、本日はこの答申案についてご審議をいただくわけでございますが、前回の審議会の後、８月13日から８月27日まで答申の素案につきましてパブリックコメントを実施いたしました。本日は、とりわけ前回ですが、本審議会の意見とか、その考え、それからこのパブリックコメントで頂戴したご意見等を踏まえまして、私の下で作成いたしました答申

案につきまして、ご審議をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
　それでは、早速ですが会議事項に入りたいと思います。
　本日の議題は、長野県中期総合計画（仮称）の策定について、この答申案でございます。これにつきましては、先ほど申し上げましたように、前回の当審議会のご意見、あるいはパブリックコメントでいただいたご意見等を踏まえまして、答申素案を修正したものでございます。それでは、資料に基づきまして、特に修正した部分等につきまして、説明をいただきたいと思います。岩崎企画課長からお願いします。

（岩崎企画課長）
（資料１から資料７に基づき説明）

（小宮山会長）
　ありがとうございました。
　本日は、ただいまご説明をいただきました点を中心にご議論をいただき、答申案をまとめてまいりたいと思っております。
　ご意見、あるいはご質問等がございましたら、自由にお願いしたいと思います。

（古田委員）
　資料２の基本的視点の①ですけれども、「長野県の優れた点をベースに」という表現があります。内容にはとても共感しますので、内容の問題ではありませんが、「優れた」という表現は固定概念が踊ったという感じがします。何をここで意図したいのかというところを、表現において考えたほうがいいと思います。
　これとの関連で各地域の施策の展開も50ページ、51ページなどを見ていきますと、例えば「地域の“宝”を生かした観光地づくり」というような「地域の宝」であるとか、51ページですと「地域資源」という言い方になっています。なぜ長野地域だけが宝なのかはよく分かりませんけれど、整合性がない。そういった長野県のよいところというか、長野県らしさの表現で、一点目は「優れた」という表現でいいのかということと、各地域において表現が違っていますが、整合を図ったほうがいいのではないかということです。

（小宮山会長）
　確かにこうやって見ますと、そういう整合性が取れてないところがあります。これは、地域から上がってきたのを中心にここへ盛り込んだという経過があったかと思いますが。

（岩崎企画課長）
　ご指摘の点は、確かに分かりづらくなりかねないということも心配しないといけないと思いますので、計画の中では今のすぐれた点、あるいは長野県らしさ、そういった表現の統一が取れるように検討させていただきたいと思います。
　地域編については、各地域で検討いただいた中で地域資源を「宝」と表現したいということもありますので、地域編については意図が伝わるような形で、なんらかの注釈をするというような形で、分からないということにならないような工夫をさせていただきたいと

思います。そのへんについては、また検討させていただきたいと思います。

（鷲澤委員）
　古田委員と似た問題と言いますか、考え方の問題です。確かに今のご指摘と私の申し上げたいことも実は似ているのですが、この資料２の「長野県づくりのための施策」ということで、施策の柱が五つ出ているわけです。それとこの地域編との整合性がありません。もちろん全く同じである必要はありませんが、県の計画として打ち出すのであるなら、それぞれの地域でもそのことに触れておかないとまずいのではないかということがひとつです。
　もちろん、地域によって出てくる問題については濃淡があっていいと思います。と同時に、その地域として独自の問題もおそらく出てきます。言葉の使い方の問題ということもありますが、全体に触れてないというのは非常にまずいと思います。私は、ボイス81のときにも同じことを申し上げています。以上です。

（岩﨑課長）
　ボイス81でもご指摘いただいております。検討いたしまして、できるだけ整合が取れるようにしたいと思います。ただ、地域の議論も大切にしたいと考えていますので、そういったところも踏まえて検討させていただきたいと思います。

（鷲澤委員）
　別にどこがいけないということではありませんが、考え方として、県がせっかく五つの柱を立てたのに、地域編にはその柱が全く抜けているものがあるわけで、計画というのは、そういうものではないのではというのが、我々の考え方です。

（岩崎企画課長）
　承知しました。検討させてください。

（小宮山会長）
　この地域編については、この審議会でもあまり踏み込んで、これまで議論してなかったので、そのへんの整合性という観点から少し検討をしてみたいと思います。

（松岡委員）
　私、前回から出席させていただいたので、よく分からないところもありますが、挑戦プロジェクトについて、老人問題を専門としていますのでそれを例にしてお聞きしたいと思います。資料３の16ページ、「長野県づくりのための施策」の３番目の安全・安心のボックスの「主要施策」の１番目に、「世界に誇る健康長寿県の確立」という施策がございます。そして、挑戦プロジェクトとして「健康長寿ＮＯ．１の確立への挑戦」を挙げています。挑戦プロジェクトは、分野横断的なテーマで、県が積極的にこれから挑戦していく非常に緊急のものであるということだと思いますが、この挑戦プロジェクトのフレーズと、今、私が読みました主要施策の「世界に誇る健康長寿県の確立」というのは同じことのように

読めます。
　しかし、挑戦プロジェクトは分野横断的なものという説明でした。そうすると、主要施策の「世界に誇る健康長寿県の確立」と、挑戦プロジェクトの「健康長寿ＮＯ．１の確立への挑戦」との関係はどうなのか。こちらのほうが分野横断的なテーマで、16ページの安全・安心に入っているのは各部局がやる内容と読み取れますが、どうもそのへんが同じようなことを書いてあるにもかかわらず、片方では分野横断的と書かれていまして県民には分かりにくいと思います。
　また、20ページに挑戦プロジェクトの「健康長寿ＮＯ．１の確立への挑戦」の「施策の例」がいくつか挙げてございます。この施策と16ページの主要施策との関係がいまひとつはっきりしません。さらに30ページでは、「主要施策の展開方向」というのが出てまいりまして、「ねらい」と「内容」というのがまた出てきます。見比べてみますと、何か非常に重なっていて、どうもうまく理解できないところがあります。
　分野横断ということですが、「長寿ＮＯ．１」は、どことどこの部局に関わると具体的に考えていらっしゃるのか、どうも見えないような感じがしますが、そのへんを教えていただければと思いますが。

（岩崎企画課長）
　16ページの施策の体系図をご覧いただきたいと思いますが、主要施策として44、ここの小さなボックスの中に入っています。ここに記載しました主要施策については、県の各部局が、言葉はあまりよくありませんが、いわゆる縦割りで、例えば今のご指摘の「世界に誇る健康長寿県の確立」という部分には、衛生部として健康づくりをしていくための施策をこの中に入れています。象徴的にいいますと、そういう形になります。現在の衛生部が担当している事務を整理しております。
　一方、挑戦プロジェクトの「健康長寿ＮＯ．１の確立への挑戦」には、その施策も含まれますが、介護の問題、食育も含めた健康づくりの問題、さらには高齢者の方が住みやすく暮らしやすい地域づくりの問題も含まれます。こうしたことに総合的に取り組み、長野県は健康で長生きで、高齢になっても安心して暮らせるという意味の「健康長寿ＮＯ．１の確立」ということでございます。そういう意味で、横断的と申し上げています。

（松岡委員）
　今、社会部と衛生部は別ですよね。それを、一緒に協力してやるというイメージですか。

（岩崎企画課長）
　簡単に言いますと、そういうことになります。

（松岡委員）
　私、本庁の組織再編を議論している審議会に参加していますが、そこではこの二つの部を一緒にしようという案が出ていまして、そちらとの整合性というのも、あるのかもしれませんが。

（小宮山会長）
　挑戦プロジェクトについては、前回、既に日本一ではないかとご指摘をいただきましたが、例えば若年者にもメタボリックシドロームが非常に出ているとか、健診の結果、長野県は危険信号が出ているとか、そういう報道がされています。子どものときから、食育、教育畑を含めて、あるいは健康環境、介護、福祉まで含む予防から福祉を含めた広い範囲で、これを確立するというのをナンバーワンの確立と数値目標的に、ここに取り入れてみました。

（松岡委員）
　その思いはすごくよく分かって、私も賛成ですけれども、この表現の仕方というんですか、「世界に誇る健康長寿県の確立」と聞いても、普通の人は衛生部だけをイメージしないと私は思うんです。先ほどの説明で、これは衛生部の仕事だとおっしゃっていますが、健康長寿には社会部の関係も当然入ってくるので、どうもそのへんが一般の人たちとの感覚と、少しずれているように思います。まして、機構改革では、まだ決まっておりませんが、それらが一緒になる可能性もあるので、なおさら分かりにくくなってしまうということを少し心配しただけなんですけれど。

（小宮山会長）
　ほかの県でもそうだとは思いますが、横断的な部分と、特にこれを強調していこうという５年間の主要施策といいますか挑戦的なものを、この間に確立させようということで、かなりの部分はオーバーラップしてしまいます。

（松岡委員）
　そうですね、チェックしましたら、主要施策の一番上に書かれているものが多いんですけれど、それを、挑戦プロジェクトみたいな形で若干表現を変えて取り上げている。
　それを取り出しましたというと、今度は横断的にならないから、まずいのかなというか、なんかモヤモヤってするところがあります。

（岩崎企画課長）
　ご指摘を踏まえまして、表現方法の問題かもしれませんし、私の説明の問題かもしれませんが、分野横断ということで考えています。私の説明で部局の話をしましたので混乱したかもしれませんが、健康分野と福祉の分野と考えていただくと、組織が一緒になっても分野は分野としてありますので、そういった意味の分野横断的とご理解いただければと思っております。

（松岡委員）
　表現が一緒なんですね。

（小宮山会長）
　そこから抽出して少し挑戦的な表現にしたというところがあります。

（松岡委員）
　そうですね。16ページの「世界に誇る・・・」というのが一番目にございますね。これと、何かと関わらせて横断的としていただくと、もっと分かりやすいという気もしますが、それもやりにくいということでしょうか。

（和田企画局長）
　30ページをご覧いただきたいと思いますが、主要施策が並んでいますが、その①、名前の付け方は検討させていただきたいと思いますけれども、挑戦プロジェクトには、この30ページでは①、②、④、⑪というところで施策が構成されてくるかと思います。これは社会部だけではなくて、衛生部とか生活環境部、そういった横断的な面にわたっています。そういう挑戦プロジェクトであるということで、横断的というものを整理させていただきたいと思っています。

（松岡委員）
　内容的には特に直したほうがいいということではないので、分かりやすくしていただければ結構だと思います。

（池田専門委員）
　16ページの施策の体系では、これまでの議論で自然環境、環境というものを一番上に持ってくるっていうのは、それなりの意味があって上にした経緯があったと思います。18ページのイメージ図でも、その並びで左からこう並んでいます。それに対して挑戦プロジェクトでは、所得の全国レベルへの挑戦という経済のところから入っていて、並びが変わっています。
　それは、それなりの考えがあって、まずはともあれ経済ということだとは思いますが、この16ページの施策を並べた経緯とか、それを受けてイメージ図を並べている経緯からすると、環境から入ってもいいのではないかということも感じますが、いかがでしょうか。

（岩崎企画課長）
　環境分野を施策の柱にすえる経緯は、ご指摘のとおりです。その上で、挑戦テーマを設定したときの議論としては、これについては、特に順番を振るということでなくて、挑戦プロジェクトとしてやっていくものは、県の施策全体の中で力を入れていくものだという考え方から、特にその順番について議論をするところはなかったと記憶しております。そういう意味で、これまでのいろいろな議論の経緯を踏まえますと、順番を付けてこういうふうにしたということではなく、いろいろなご指摘をいただいている中のものを整理したということで、挑戦プロジェクトについては特に順番というふうにお考えいただかないほうがありがたいと考えております。

（若林委員）
　今回のまとめた計画の一番の特徴点は、この挑戦プロジェクトだと思います。今まで論

議をしてきた経過は、みんな縦割りでものを考えるということをやめよう、もっと横断的に、長野県らしさを出すにはどうしたらいいかというところが、この審議会の大きなポイントだったと私は認識しています。

そういう意味合いでは、この挑戦プロジェクト、活字は小さいんですが、今回まとめた中では大きい役割を担うものですから、これは是非、今のところは、小さく生んでもらって結構ですが、将来はこれが表に出てくるようにしてもらいたい。表に出てきて、業界、県民、県の体制も含めてこのプロジェクトの中で横断的にひとつのテーマを詰めていくようなことをしていくことが、今回我々がつくった総合計画が具体化された姿だと思いたいです。

案はこれで結構です。これ以降進めていく場合には、縦割りではなくて、どういうテーマをどうするという具体的な方向を定め、この後すぐにスタートしていくぐらいな気持ちが必要ではないかと思っています。

（鷲澤委員）

今の話と同じことになるかもしれませんが、計画そのものはかなり立派にできていると思います。今は計画をつくっているのだから「ない」と言われればそれまでですけれども、この計画の実行段階の担保というか、実行段階をどうするのかという部分、ＰＤＣＡサイクル（計画（Plan）を実行（Do）し、評価（Check）して改善（Act）に結びつけ、その結果を次の計画に活かすプロセス）でいえばドゥ（Do）の部分をどうやっていくのかということが一番難しいと感じています。

長野市でも、そのことが課題となっています。計画はつくるんですが、実際にそれをどうやるのかということができていないということが、行政の一番の欠点だと思っています。

具体的に申し上げれば、観光部をつくりましたが、これができたことによって、意識が全く変わってきています。そういう点でも、本当は組織をどうするのかというようなことも含めてやらないと、５年間はすぐに経ってしまいますから、５年が経ってそれぞれの計画を評価したときに「何にもできていないではないか」ということになりかねないと感じています。これは、行政が、私も含めての反省として、ドゥの部分が非常におろそかになっている例が多いということを申し上げておきたいと思います。

それから、先ほど私は、全体の計画と地域編との整合性について申し上げましたが、加えて、市町村にまたがる計画は、いろいろなものがあります。これは村井知事さんの性格にもよるのかもしれませんが、こうしたことについては、今のところ地域でやってくださいという感じになっていますが、これは難しいことです。というのは、長野市が例えば須坂市のことに口出しをするというのは、実際にはできない。また、これは絶対にやってはいけないことです。

ですから、そういう意味からしますと、県のリーダーシップというのが、もう少しいろいろな部分で出てきてもいいのではないかと私は感じています。そういう意味では合併の問題が一番大きいのかもしれませんけれども、是非、そういう部分について、地域横断的な問題に関しては、市町村独自のものでしたら必死でやりますが、少しでも他の市町村に係るものについては、他の自治体に口出しをすることは私どもとしてはできませんので、これは、是非お考えいただきたいと思います。

それから、全体を読んで、この部分が足りないと思われる箇所が２か所あります。一つは、前回私が中山間地域の問題を強調しすぎたからかもしれませんが、中心市街地の問題が抜け落ちているのではないかと思います。例えば16ページの「長野県づくりのための施策」の体系に位置付けていただきたいと思います。具体的に言えば、２番目の「地域を支える力強い産業づくり」になりますが、それぞれの市にとって、中心市街地の問題というのは、５年以内と言わないで、もっと早くやりたいプロジェクトです。この前、農山村のことを少し強調し過ぎたと今は反省していますが、中心市街地の問題は是非お願いします。

それから、もう一つ、「明日を担い未来を拓く人づくり」というところに、四つの主要施策がありますが、私は、高等教育機関についての記述を入れてほしいと思います。学長さんを前にして恐縮ですが、信大等それぞれ頑張っているわけですが、まだ、ちょっと足りないのではないのかという気がします。以上です。

（小宮山会長）

非常に貴重なご指摘をいただいたかと思いますが、最初に、県への要望がありました。ドゥの部分を、しっかりやれということだと思いますが。

（岩崎企画課長）

ご指摘のとおりでございまして、特に私のほうから今こうだとは申し上げられませんけれども、先ほど松岡委員さんからもありましたように、行政機構審議会で県の組織の検討をしておりますし、それから行政システムの改革のほかに、県の長期的な財政見通しとか、いろいろ合わせて検討すべき事項がありますので、そういった中で、計画でこういう方向性をいただいておりますので、それが反映できるように、私どものほうから働きかけていきたいと考えています。

（小宮山会長）

それから、中心市街地の問題については、今回新たに挿入してありますが、もう少しどこかでうたってほしいということがございました。これについては検討してみたいと思います。

それから、高等教育の問題、先ほど、信州大学も挙げていただきましたが、何人か信州大学関係者もいるわけですが・・・・。

（樋口専門委員）

挑戦プロジェクトでは、創造的な人材の育成ということを入れていただきましたが、今ご指摘もありましたように、挑戦プロジェクトは各施策を横断的にというお話ですから、どこかで読めれば読めると思いますが、高等教育の充実の中でひとつ産業に関していえば、創造的な人材の育成、人づくりをしていくということを明確に打ち出すといいのではないかと思いますが、施策の中ですべて担いきれないという部分も当然あると思います。大学の役割も大きいと思いますから、単に県の施策と位置付けするのではなくて、県あるいは高等教育機関、あるいは地域、市町村にもご協力いただいていますが、そういう関係者が連携をしながら、創造的な人材を育成していくということを、是非長野県として旗印にし

ていただければと思います。
　そういう旗が立っていますと、大学サイドでもいろいろ協力する道があると思いますし、市町村も協力する道があると思います。県の予算が付いていないから旗は立たないということになってしまうと、大きな力の結集ができないと思いますので、力の結集ができる形で、施策も何か少し工夫していただいて、県がやるということを公約してくれというのではなくて、先ほど鷲澤委員さんからお話がありましたが、県がリーダーシップを取って創造的な人材を育成していくとか、あるいは高等教育機関と連携をしながら、産業については創造的な人材、さらに豊かな人づくりのためにいろいろと貢献をしていくということを、技術的な文言の問題はいろいろあると思いますが、この施策の中に入れていいのではないかという感じはします。

（小宮山会長）
　確かに高等教育の役割というのは、非常に多岐にわたると思います。それは人材育成だけでなく、産業の振興、あるいは今、信州大学では環境の保全というのに非常に力を入れております。そういうところを今のご意見のように、大学が県と連携を保ちながら、あるいは県民、自治体等との連携を保ちながら関わっていくというような形で盛り込むよう工夫させていただきます。

（池田専門委員）
　この計画の具体的な文言の話ではないんですけれど、先ほど鷲澤委員がおっしゃったように、実行性の担保というのは非常に重要になると思います。県民の方のご意見を見ると、この中のさらに細かいディテールだとか、具体的な事業を要望されていることも多くありました。そういうものを踏まえると、今動いている各市町村あるいは県の既存計画を、これにどう合わせていくのか、その計画をどういうペースでやっていくのかによって、見直しを早くやらなければ整合性が取れないものも多く出てきてしまうと思うので、これは５年計画ですから早くやらないと、こちらの計画がもう５年経ってしまうみたいな感じですので、そのへんの意気込みというか、スケジュールを少し教えていただきたいと思います。

（岩崎企画課長）
　県の個別計画は、今、私のほうで把握しているだけで70くらいありますが、そうした計画を中期計画に合わせて見直すかどうかという質問かと思いますが、この計画も５か年、それからそれぞれの計画もやはり５か年ということで、ご専門の方々にご審議いただいて、計画をつくっております。そういう中で、この５か年計画で検討された事項につきましては、それぞれの個別の計画を所管する部局に当然伝えておりますし、今日も各部局から出席をしております。そういった内容については伝わっていくと考えておりますが、期間が合わない計画をすべて見直すかどうかということにつきましては、難しいと思います。ただ、必要な整合は取っていかなければいけない部分がありますので、そういった部分は計画全体を見直すということではなくて、計画の執行段階で整合が取れないというようなものが仮に出てきましたら、そういったところの修正ということは検討いただくように、私どもから計画の進捗状況と内容について伝えて、各部局に判断をしていただくようにして

いきたいと考えます。

（古田委員）
今のに関連してですけれども、40ページの（３）のところに、「挑戦プロジェクトの進捗状況」がございますが、ここに例えばもう少し積極的に、進捗状況を示すだけではなくて、チェックをするとか、課題を明らかにするとか、なぜそれができなかったかについてのレポートをしたり、その課題を振り返っていくようなチェックシステムを考えていくとか、できることはここに書いてしまえばいいのではないかと思います。

（原山政策評価課長）
54ページの最後に「政策評価による計画の推進」がございますが、ＰＤＣＡのサイクルを確立しようという観点で、主要施策にまず焦点を当てまして、それについての評価を行います。その際には自己評価に加え、第三者による評価、あるいは県民へのアンケート調査ということで、県民の意見も反映した形で評価をし、その評価結果を次の施策展開に生かしていくという形で、今考えております。
併せて、挑戦プロジェクトにつきましては、挑戦プロジェクト自体が施策横断的でございますので、挑戦プロジェクトを構成する各施策がどれくらい進行しているのかということを、まずその主要施策の評価をした上で、挑戦プロジェクトの進捗状況がどうなのかということも合わせて県民の皆様にお示ししていくというようなことを、今考えているところでございます。

（小宮山会長）
こういったのは、従来のこういった計画にはあまりなかったかと思いますが、是非こういう評価の部分を取り入れていただいて、常に県民が一体となってこれを進めていくという姿勢が大事かなと思っております。是非、これをやっていただきたいと思います。

（細川委員）
私、１回欠席してしまいまして２か月ぶりですけれども、今回のこの答申案を拝見いたしまして、本当に皆さんご苦労されて、ずいぶんよくまとまったなという印象を受けました。そして、一番魅力的なのは、挑戦プロジェクトの構想に非常に魅力を感じました。
ただし、私たち、このことをずっと審議してきた関係者はこれを見て、随分いい形にまとまってきたという気持ちがありますが、もしこれが発表されて県民がお読みになったら、本当に分かるのかしらと考えたときに、これでは最後まで読んでくれないかもしれないという心配があります。ですから、目玉の挑戦プロジェクトについては、もっとアピールするようなプレゼンが必要と思います。
それから、後のフォローですね。きちんとなさるとおっしゃっていますけれど、もちろん、それは大事ですが、県民がそれをちゃんと意識していなかったら、県民の協力がなかったら、これは進まないわけです。市町村が主役で県民との共存とうたっていますのに、その七つの挑戦プロジェクトがよく理解されていないままに、いくらこれが先に出ても全然進みません。この挑戦プロジェクトとは関係なく、既にそれぞれの地区の計画が出てき

ていますが、それでしたら進捗状況の計りようもありません。やはり、そこに整合性を持たすために、もう決まってしまったものは難しいのかもしれませんが、せめてこことここの部分は確実に全地区でもそれに向かって、この地区はこの目標達成のためにこういう計画を立てるということを、具体的にしていただかないと、進捗状況を検査しても全く出てこないのではないかという心配が少しあります。

ですから、この挑戦プロジェクトをもう少し強烈に県民にアピールできるようなプレゼンの仕方、そして広報の仕方、１冊にまとめるときにもこういう形ではなく、もっと分かりやすい形で、インパクトのある発信をしていただきたいと思います。

（小宮山会長）

先ほどの若林委員のご発言と同じだと思いますが、最終的にはビジュアル的なものを入れたり、あるいは大きくというようなプレゼンの仕方を少し工夫をして、県民に周知できるような工夫が必要だと思っております。

（松下委員）

長野県の誇る財産である森林について、私は前々から、もう少し上位に扱えないか、表現をもう少し詳しくできないかと提案をしていまして、現在まできています。一方で、森林税の検討が既に行われ始めていると聞きますが、それはこの中期総合計画より前にもう着手されていることなのか、あるいは場合によるとそういったものも、この中に織り込んでもよいものなのか、そのあたりのことを教えていただければと思います。

（岩崎企画課長）

森林税についてのご指摘ですけれども、森林整備のための財源をどうするかという検討が、現在されているところです。導入する、しないという結論は、まだ出ているわけではございませんので、そういったことを踏まえて、今回の計画もその範囲で書かせていただいているということです。

税とは書いてないとおっしゃられるかもしれませんが、そういう現状を踏まえて書いたということで、審議のスケジュールをはっきり把握しておりませんけれども、計画としてつくる段階までになんらかの方針が出れば、それは計画書にする段階で反映させるような形で考えていきたいと思います。

（松下委員）

非常に積極性のある取組のように受け止めているものですから、そうなると途中からも結構ですから、ここに織り込まれるほうがむしろいいのかなと思います。

（古田委員）

今の発言を後押しするような意見ですけれども、特に河川と森林と、それから限界集落の問題については、先ほどもおっしゃっていましたけれど、市町村の枠を超えた問題ですので、これについては県の姿勢をもう少し書き込んでもいいような気がいたします。そのへんの表現を少し強めたらいいのではないかと思います。

（伊藤委員）

先ほどまちづくりのお話もありましたが、例えば20ページの「人材育成県への挑戦」の中でも、まずベースとして製造業や基幹産業における人材育成が柱になるということはあると思いますが、まちづくり、地域づくりや、商業者の後継者の問題とか、町に若者たちがお店を起業していこうという動きもあるわけです。20ページ又は28ページの「活力ある商業・サービス業の振興」の中で、商業の人材育成についてもう少し触れていただきたいということがひとつです。

それからもうひとつは、プロジェクトについて。今回、プロジェクトが非常にまとまって出てきたと思うのですが、ではこれをどういうふうに進めるのかという各委員のご意見は、本当にそのとおりだと思ってお伺いしていました。結局それが進むかどうかということを日常的な施策レベルが負うということは、その施策の寄せ集めとして、挑戦プロジェクトがつくり上げられるということになります。それでは、それが進んでいるかどうかというのは、目標に対する評価として後追いの結果で見ていくしかないわけです。

プロジェクト推進は、それを統括するリーダーなり、組織なりが、優先順位を各部局に、これを先にやろうとか、まずそこに事務事業をきちっと構築しようとか、そういったリーダーシップなり、後追いで評価をするということではなく、まとめていく場面というものや、組織というものが必要ではないかと感じております。

そういう意味で、挑戦プロジェクトをやりましょうと言ったけれども、各部局の日常的にやってきた施策の中で、まあ、これはちょっと力を入れようというところに落ち着いてしまうならば、つくった意味がありません。これをとりまとめて挑戦プロジェクトとして横断的に、だれが統括管理するのか。行政評価の評価目標のところを後追いで、評価の結果としてこうなりましたということで管理していますというお話では、全然プロジェクトが挑戦的ではないと感じます。県は実際にどう挑戦プロジェクトを進めようと思っているのかというところを教えていただければと思います。

（小宮山会長）

先ほどから同様なご意見をいただいています。これは委員の方々が、これまでのこういった計画が、計画倒れだったのではないかというところから、こういうご意見が噴出していると思います。ですから、これはつくったからには実行しなければだめだということで、県から、そのへんの決意のほどをいただけたらと思いますが。

（岩崎企画課長）

非常に貴重なご指摘だと思います。私どもも事務局をさせていただいている中で、貴重なご指摘をたくさんいただいておりますので、それが県政の上で反映される、形になっていくというところをどうつくっていくかというところが課題だと考えております。プロジェクトとプロジェクトリーダーという進め方もひとつの方法だと思いますので、そういったことも含めて推進体制については、まだそこまで検討が進んでおりませんけれども、計画をまとめるのと並行しまして、推進体制についても検討させていただくということで、ご理解をいただきたいと思います。

（花岡委員）
私も、今の挑戦プロジェクトの実現という問題は非常にポイントになると思います。５か年計画、中期計画の骨ということでありますので、県の取組として、是非予算編成の中で、計画全体のために予算編成をするのですが、とりわけ挑戦プロジェクト実現のための予算というような整理をして予算編成をしてもらうと非常に分かりやすいと思います。それは計画の次元の問題とは違うと思いますけれども、是非企画当局で財政当局へ話をして、そういう形で予算編成を整理してもらうと非常にいいのではないかと思います。

（池田専門委員）
今の、実効性のことで提案ですけれど、先ほど既存の70の個別計画については、特に見直しを求めずに執行段階でということですが、それでは全く弱いと思います。執行段階でと言うのであれば、この計画と既存の個別計画とを整合させた、例えば挑戦プロジェクトについて勘案して個別計画をどうやっていくのかというものを各部局が出した上で、そこに書かれたものがどう進捗しているかというのをフォローしていかないと、執行段階で見ていくというような甘い考えではだれもフォローができません。
そこをきちんとレポートとしてまず出して、個別計画を見直すか見直さないか、それぞれ法定計画もあるのですぐにできないし、お金もかかるでしょう。けれども、部局としてこれを受けた段階で、既存の個別計画と整合させて「こういうことをやります」みたいなものを、きちんと表明した上でやっていかなければ絶対進まない。何十も地方の環境基本計画をつくってきた立場から、もう嫌というほど棚に上がっているのを見ていますので、それだけは心してやっていただきたいと思います。

（鷲澤委員）
今、池田委員さんがおっしゃったことについて、基本的にはそのとおりだと私も思いますが、実際にはそれでは行政は動きません。行政は先に計画があって、それぞれの部局がそれに対してどうするかということを検討していく。
ですから、どのようにドゥのところをやるのかということについて、これからきっちり我々が見ていくということではないかなと思います。
それから、あまり苦言ばかり言っていては具合が悪いので、この県の中期計画全体についての私の感想を申し上げます。県の計画の策定過程でこれだけ議論をしたということは、過去なかったと私は思います。少なくとも前回の長期計画、コモンズですが、我々はその間遠くで見ていて、委員会の議事録を読むだけでした。しかも、その計画そのものは、議会の承認も得ていない。
私は１回だけ聞かれ、大反対ということを文書にまでして出しましたが、全くのれんに腕押しでした。ですから、今回の計画を策定する過程というのは、私は非常に敬意を表しています。やり方としては大変良いことと思います。このことについては、この審議会だけでなくて、ボイス81など、いろいろな場所でも話がされています。そういう意味では、私は、非常に良いことだと思います。そのかわり、実行できなかったら、県は大変批判されます。それは、心していただかないとまずいと思います。

先ほど県議会に議決を求めるというお話もありましたが、私は大変良いことだと思います。前回、私がなぜ県議会が承認しないのかと聞いたら、それは法的には必要ないと言われました。私も「ああ、そうですか」と言っただけで、よくなかったのですが、本当にそういう意味では、これを県議会で承認するというのは、開かれた過程ということでは非常に大事だと、私はそう思っています。そういう意味で私は、今回の全体の過程については敬意を表したいと思います。

（遠藤専門委員）

今、鷲澤委員がおっしゃられていたことと少し似ていますが、私は初めからこの審議会に出させていただいていますが、ものすごく多様な意見があって、いったいどんな形でまとまっていくのか、途中で少し不安になりましたけれど、今日の報告書を見て、非常にいい形に整合が取られているので、まず事務局の皆さんに敬意を表したいと思います。

やれるかやれないかという話は、僕は少し次元が違うと思っていまして、地方行政というのは、ひとつの目標を掲げて、５年後にその目標に対してどれだけちゃんとやったかという政策評価ということは、必ずこれから対になって出てくると思います。ですから、我々は、まず、ちょっと目標は高いけれどもやれそうな問題、これを県民と一体化して目指していこうという方向、これを高らかに打ち上げることは大事なことではないかと思います。

そういう意味で、先ほど細川委員さんもおっしゃられていましたが、だいぶ形がついてきた、非常にいい形にまとまっている。以前の中期計画を存じ上げませんけれど、国際性という形で長野をとらえたというのは、たぶん今回が初めてではないかと思います。つまり、この地球時代に、長野県は、私たちのこの地域をどうやってつくっていくかという視点が明確に入ってきた。たぶん今までは、日本の一県としての長野県の取組が中心だったと思いますが、国際性というのがひとつ入ってきている。

そういう意味で高らかにうたえる点ですが、「世界に開かれた長野県」という言葉がたくさん出てきますが、「世界に開かれた長野県」と言うと、今まで鎖国していたのかなと感じてしまう。ですから、何となくだまされてしまいますが、正確にイメージできるという点では、地球時代の長野県、グローバル化というのは、今、この明の部分と暗の部分がいろいろ議論されていますので、そうではなくて、地球が一体化になるこの時代、地球時代の長野というものを私たちに認知させた。これがひとつ大きな点だと思います。

是非そういう意味で、「世界に開かれた」という、この言葉はよくないと思いますので、２ページの「グローバル化の進展」の最後のところに、地球時代の長野のあり方について提言したというような趣旨のことを一言入れておく。そこのところに、もしあえて入れるならば、「世界に開かれた長野」という言葉をお使いになったらどうかなと思います。

それから、長野オリンピック、パラリンピック、それからスペシャルオリンピックス、これを成功したというのは、長野県民にも評価できないくらい大きなレガシー（Legacy：遺産）、この三つを成功させたというオリンピックレガシーというものを残しています。県民の意識の中に末代まで続くようなＤＮＡにインプットされているようなところがあります。ですから、国際意識が極めて高まったということを、もう少し高らかにうたい上げていただきたい。この三つを成功させ、自信もついた、「地球時代の長野」という、そういう認識を県民が持った。これは、今、私たちの財産になっているように思います。それをう

たっていただきたい。
　そして、16ページですが、そういう点からいくと、この２番目の「世界に飛躍するものづくり産業の構築」は、これでいいんですけれど、「観光立県『長野』の再興」といいますが、この計画の中にひとつも英文、英単語が出てこない。今、英語を話す国はアジアでものすごく伸びていますが、日本人は英語が一番下手だと言われています。観光立県「長野」の後ろに括弧してＮＡＧＡＮＯと英語で書いていただきたい。今、世界的にみると、この長野というのはものすごく有名です。ですから、あえて提案しますと、観光立県の後ろに括弧して、ローマ字でＮＡＧＡＮＯという表記を入れていただいたら、少し国際的な雰囲気が出るのではないかと思います。
　それから、先ほど、この創造性という話が樋口委員からも出ましたけれど、これはものすごく大事だと思いますが、実は大学教育だけでは創造性というものはつきません。小学校、中学校、高校というところで子どもたちの創造性は花が咲く。大学では、最後の形を整えるくらいのレベルです。最近話題になっている日本の教育の原点は農村にありというのは、名前を忘れましたけれど、鳥取大学の先生が書いているんです。農村文化が日本の理科・科学の原点である。そういう点では、最近の子どもたちは農業体験をあまり持たない。ところが長野では、周辺に農業が非常にたくさんございますし、日常やろうと思えば、まだまだそういう文化に触れられます。ですから、これも長野の特長のひとつで、創造性教育を大学や地域が一体になって、小中段階の教育から進めるというようなところを１か所入れておいていただくと、この長野で育った子どもたちに未来を託す、すばらしい人材になるという地域としてアピールできるのではないかと思います。
　あちこち飛びましたけれども、ちょっと感じたことを申し上げましたが、何か織り込んでいただければと思います。

（平尾委員）
　今の遠藤委員のお話に関連してですが、この前の長期構想というのが、平成６年、７年だったですか、そのキャッチフレーズが「地球時代の知恵の国」で、割と国際性をベースにした長野県をどうつくっていこうかというものでした。その知恵の国にふさわしい人材をつくっていこうというのは、平成７年あたりからもう十分認識をしていた話で、この長期構想を受けた中期計画でも、中に入れてやっていたと思います。むしろ、コモンズの時代がアブノーマルな時代で、逆にちょっと後戻りして、やっと元に戻ったという印象です。
　鷲澤委員から今回の計画は非常にオープンな形でまとめられたというお話がございましたが、全くそのとおりで、私も事務局は大変だった、非常にご苦労されたなと思っております。
　今の遠藤委員のお話とのつながりで申し上げますと、私もひとつ、前回も少し申し上げましたが、非常に危機的な状況であるという認識を、もっと前面に出してほしかったと思います。例えば市町村の関係ひとつ取ってみても、この６月に地方公共団体の財政の健全化に関する法律が成立し、平成18年から全部の自治体が、第３セクターを含めて連結決算でやるという状況になるわけです。そうすると、外郭団体や第３セクターの大赤字になっているところが、全部さらけ出されるような状況になり、立ち行かなくなる自治体もかなり多くなる可能性もあります。ですから、市町村との関係は、主役だよといいながら、こ

れから来年に向けて連結化されたようなときには、相当厳しい市町村との関係が迫られるというのがあるということです。

もうひとつ、地球時代ということで考えた場合に、やはり長野県の産業あるいはここに生きている人たちが、もう素肌を海外にさらすような状況になってくると思います。そういう意味で、非常に厳しい緊張感のあるその中で、この長野県の220万県民が生きていかなければいけないという、その中でどういう人材をつくり、環境とどう調和をして生きていくのかという、そういう意味では大変な覚悟と緊張感、それからそれに基づく強いリーダーシップが求められるという状況だと思います。総論的に言うとそういうことなんですが、そういうことをこの中で前面に出していただきたいと思いました。

また先ほどの話に戻るんですが、その中でこの内向きな信州という言葉が、私はどうしても気になって仕方がありません。キャッチフレーズに信州という言葉を使っているんですが、そのほかに信州という言葉をどこかで使っているのでしょうか。「“活力と安心”人、暮らし、自然が輝く信州」という基本目標以外に、信州という言葉をどこかで使っていますか。前回申し上げた長野という言葉であれば、私は非常に開かれた、地球時代の知恵の国というにふさわしい感じがするのですが、もし基本目標に信州という言葉を使うのであれば、それにふさわしい新たな信州のイメージを、ここでもっと前面に出しておく必要があります。やはり私は、これからの危機的な状況あるいは市町村ひとつ取ってみても、ものすごく緊張感のあるような時代が、もう一、二年先に来て、これを乗り切っていかなければいけないということを考えると、緊張感のある、危機的な状況ということを、もっと前面に出す必要があるのではないかと思います。

全体としては非常によくまとめていただいて、私はこれ以上申し上げるつもりはございませんが、そのへんのメッセージ性といいますか、乗り越えていくための立ち向かうべき課題がすごく多い。それに向かって、220万県民が一致団結してやっていくというのが、ここ数年の長野県の課題だということを私はもっと前面に出してもいいと思います。以上です。

（岩崎企画課長）

今の信州という言葉ですけども、確かに見出しレベルで、ほかに信州を使ったところはありません。基本目標につきましては、２回にわたっていろいろご議論いただいておりますので、そういった意味では審議会でご検討いただいた結果というふうに考えています。しかし、委員ご指摘の危機感をもっと前面に出すべきだという点については、従前からご指摘をいただいておりまして、それなりに工夫はさせていただいたつもりではおりますけれども、まだ足りないというご指摘でございますので、再度どんな形で表現できるか検討させていただきたいと思います。

（松永専門委員）

今の平尾委員のご意見に関連して、今回基本目標を「“活力と安心”人、暮らし、自然が輝く信州」にしたわけですけれど、この言わんとするメッセージや、今後目指す姿は、長野県経済はこのままいくとだめになるということだと思います。活力や競争力、安心が失われたり、人、暮らし、自然が、このままでは輝かなくなってしまうかもしれないという

危機感を込めたメッセージだと思っています。
　ウサギとカメではありませんが、人間慢心するといいことはなくて、長野県は昔、教育水準が非常に高かったのに、最近若干落ちているというのも、やはり長野県が昔より豊かになった慢心の表れだと僕は思っています。平尾委員の意見もやはり慢心してはいけないということであって、慢心すると前に進む推進力が弱くなってしまうということをおっしゃっていると思います。
　このように厳しいことを言うのは、長野県が嫌いだとかいうことではなくて、やはりいい県にしたいので、さらに競争力をつけて、収入も税収も上げて、それをうまく効率的かつ県民が満足できる格好で使っていく県にするにはどうしたらいいかということを言いたいがために、今日お集まりの方は皆さんが、愛情を込め厳しくおっしゃられていると思います。この県への愛情の表現方法として、県民あるいは産業界をスポイルする（spoil：だめにすること）のではなく、愛のムチで危機感を訴える、このままではだめだよということを訴えることが重要だと思っています。今後、今日の基本目標を議会や県民に説明する場でも、そういうメッセージが込められていることも、是非県から言っていただきたいと思います。

（北原専門委員）
　私、この間、長野県内の山をだいぶ登ってきてたんですけども、山岳に対する記述が不足気味かなと感じています。というのは、24ページに「豊かな自然環境の保全」とありまして、「山岳、渓谷、湿原など」とあります。山岳、湿原もそうですけれども、これは長野県の売りです。他県からみれば、顔になります。
　そこで、非常に感じるのは、登山道がやはり整備されてない。登山道の浸食がものすごく、１メートルも２メートルも深く掘れてしまって、もう壁の中を歩いているような状況のところもあります。それから、山小屋などの山岳施設も、国際化とうたうにはちょっと恥ずかしいぐらいの施設になっている。これからは、海外、特に、東南アジアなどアジア系の人たちがたくさん来られます、国際化をめざすならば、もう少し恥ずかしくないような施設が必要ではないかなと思います。
　このお金をどうするかですが、県がどの程度関与しているのか、私分かりませんけれども、普通は地元の自治体がやるか、山岳会関係がボランティアでやっているという状況です。このへんは、山岳遭難の救急体制も含めて、24ページあたりにもう少し記述が必要ではないかと思います。
　それから、観光との調和ですが、せっかく観光部ができて、力を入れようとしているわけですから、山岳観光というのはやはり売りですので、その調和という面からも、登山道や施設等の充実を記述したほうがいいのではないかと思います。

（松下委員）
　先ほど鷲澤委員さんからドゥの話、それから市町村とのお話もありましたけれども、前にも一度、発言させていただいたところですが、一番最後、53ページに第７として「計画推進のための県の取組」という、いわゆるスタンスないし意思表明がされております。先ほど、冒頭のところにこの文言が付加されたというお話でしたが、２に「市町村が主役の

分権改革」とあります。このあたりに先ほどの鷲澤委員のご発言にありましたように、県の関わり方がもう少し積極的な、あるいはリーダーシップ取るようなことも表現されていいのかなと感じました。

それから、27ページの一番下の⑤に「地域に根ざした建設産業の振興」とありますが、このねらいのところが非常にマイナーになっています。事実そうですが、どんどんどんどん公共事業が減って、今、建設産業は大変な時代です。「より厳しい状況にあり、活力を高めていく必要がある。」とありますが、事実そのとおりです。54ページの４番に「県有施設の適切な維持管理」という項目を入れていただいて、これはかなり画期的な表現をしていただいていると思いますが、こういったことが市町村においても、あるいは建設産業においても、ビジネスチャンスないしは雇用増進につながることになると考えております。ですから、27ページの⑤の内容の記述はこういう表現だけでなくて、もう少しでいいですから積極的な表現を入れていただけると、長野県らしくなると感じております。

これは、当たり前のような話でありながら、21世紀型といいますかこれからの方向性としては、かなり先進的な話であるはずなので、それをさらに雇用促進につなげながら考えていただけると、中期総合計画としても非常に深みのあるものになっていくのではないかなと思っております。是非もう一考お願いできたらと思います。

（滝澤委員）

私も内容的には非常にいいものができたと思っていますが、先ほどから出ています実効の関係ですが、例えば、40ページの一番下に「挑戦プロジェクトの進捗状況」という項がありまして、ここで「『挑戦プロジェクト』については、各プロジェクトを構成する施策に対応した主要施策に係る達成目標を用いる等により」とありますが、これに加えて、県の各部局の皆さんは一生懸命やってくださるとは思うんですけれども、例えば部局を超えた実施体制、組織体制を整備するなどして実現を図るとか、そのくらいの注文の言葉を入れることができないものかと率直に感じているところです。

それから、もうひとつ、先ほど出た件ですが、今申し上げましたこの挑戦プロジェクトの記述の問題、あるいはプレゼンの問題なのかもしれませんけれど、順番は全くアトランダムな話だとしてしまっていいのかということです。挑戦プロジェクトの記述が先ほど出ましたけれど、19ページの順番はぜんぜん意味付けがないという前提だったかとは思うんですが、それでいいのかなと少し疑問がなきにしもあらずです。逆にどういう順番付けにするかと言われたら、かえって難しいのかなと思うのですが。

（小宮山会長）

横断的なので、順番をつけられなくて、なくしたんですね。

（松永専門委員）

私は、この順番は、収入と支出を分けて考えると分かりやすいと思っています。１番目は収入をいかに増やすかという話で、２番目以降はすべて基本的には支出でして、どうやって効果的・効率的に使うかということで書かれている。そういう理解をしております。

（小宮山会長）
　つくったときはあまり考えずに、とにかく横断的だから順番も何もないだろうということでした。最初、いかようにも回せるようにリングにしてみましたら、全体との相関、関連性が分からないということでした。そして、それぞれの柱に盛ってしまうと、その柱に軸足が入ってしまうので、その上に乗っているように見えます。そこで、あくまでもこれは横断的なものということで、これはいかように変わってもいいという意味で番号をやめました。横断なので、番号を付けるのは難しいと思ったわけです。

（池田専門委員）
　細かいことですけども。24ページの⑤についてですが、前回も私、これはあまりにもステレオタイプだと申し上げましたが、改善の跡が見られません。特に、内容の部分で「廃棄物の発生抑制・資源化・適正な処理を推進するとともに、廃棄物の不適正処理や不法投棄の防止を図る。」とありますが、ほとんど裏返しのことを書いているに過ぎず、日本語的にもあまりよくありません。もう少し何とかしていただきたいと思います。

（小宮山会長）
　それについても、もう少し検討します。近藤委員、何かございますか。

（近藤委員）
　もう特別なことはありませんが、６回にわたって関わることができ、いい機会を与えられたと思っています。私も地域懇談会へ出たときに、皆さんからもお話がございしたように、どう実現するかということについて県民の関心が非常に高いと感じました。立派なものをつくり、やはり具体的な取組をきちんとしていくということを、最後にお話だけさせてもらいたいと思います。私自身もそのための努力をしたいと思っています。

（太田委員）
　私も同じ考えです。先ほども、メディアの方からこんな総花的な計画でいいんですかと質問がありました。私は、この挑戦プロジェクトをひとつの支えに信じますと申し上げたんですが、ひとつだけ具体的なことを言いますと、やはり議会の議員の人たちまで巻き込むということをしないといけないと思います。須坂市も今、四つのプロジェクトを我々民間が支えていますが、やはり議会が足を引っ張るようなことを市長にいろいろ言います。この反省ですが、事前に説明をやらなかったというのが、我々の一番の失敗です。
　今回は議会にも通すということですけれど、できましたらこの審議会のメンバーが七つのプロジェクトのひとつぐらいに入るようなイメージがほしいと思います。
　それから、鷲澤委員もたぶんそうだと思いますが、私も須坂市としてこれを受けたとき、具体的にどうするのか、三木市長の代わりに今一生懸命考えています。そんな中では、少なくとも市町村でこの七つのプロジェクトをつくってほしいと言うくらいの、やはり県のリーダーシップが必要だと思います。全く同じスタンスで市町村が同時に進まないと、たぶん無理じゃないかなと感じています。鷲澤市長はこの委員ですから、たぶんつくってくれるのではないかと思いますけれども、私も須坂市へ戻ったら、このようなことを市へ提

言したいなと思っています。こういう働きかけを是非、県の職員の皆さんにお願いしたいと思います。

最後もうひとつ、やはり計画をつくった人が実行に入らないとだめです。言いっぱなしの提言というのはほとんど棚上げになっていますので、できたら全員ということですが、細川さんは教育の問題について一番考えていただいているので、大変遠くて申し訳ありませんが、このプロジェクトの一つでもいいですから、ずっと関わり合いのできるようなお時間をどこかでつくっていただきたいと思います。そのような形でほかの委員の皆さんもずっと、なんらかの形でこれから５年間の進行を、一緒になって考えていただきたい、時には行動するというようなＰＤＣＡの中のドゥの部分を提言させていただきます。

（有吉委員）

私も同じで、書いてあることはとても立派で、やはりこれが実現できなければ、この審議会のメンバーとして、言いっぱなしという形になってしまうので、やはり実行の部分に関しても、なんらかの形で関わっていきたいと思います。

厚生労働省が虐待防止のための「こんにちは赤ちゃん事業」を都道府県にもやりなさいという形でやって、先がけてやっている市町村もあるので、本当にそれが実行できるように県が市町村にリーダーシップを発揮して一緒に協力してやっていいます。これと同じように、県だけでやっていくのは不可能なので、リーダーシップをどんどん発揮して、県民の理解、それから市町村の理解を得て、本当にみんなでやっていかなければいけないことだと思います。

この計画が計画だけで終わるのではなくて、本当に実効性のあるものにしていっていただきたいということ、それから、５年後までなんらかの形で、これに意見を述べた委員が関わっていける体制をつくっていただけたらと思います。

（横道専門委員）

全体的にはよくまとまって、いいものができたのではないかと思っています。特に、先ほど細川委員からも言われましたけれど、分かりやすいということでは、私、個人的にはこの構成図は分かりやすくていいと思います。

先ほど挑戦プロジェクトの順番の話も出ていましたが､順番がないということですので、その柱立ての順序とは違う並びで並べたほうがかえってよく、それもこれでしっかり説明すれば部局横断的でいいのではないかと思います。

それから、計画論の関係で、昔は10年の総合計画で３年ぐらいの実施計画でしたが、今のように変化が早い時代になると、５年ぐらいの構想といいますか基本計画、かつ、その実施計画もつなげたようなものをつくる時代になったという印象があります。

それから、従来の計画ですと挑戦プロジェクトというのは、だいたい重点プロジェクトというような戦略プロジェクトで、特に大きな箱物、ハード中心の事業計画が多かったんですが､もちろん､この計画に全然ハードがないというわけではないと思いますけれども、やはりソフトも相当入っている。それから、県主体の事業というだけではなくて、市町村とかいろいろな団体を巻き込んでやらないと、たぶんうまくいかないプロジェクトということで、そういう面でもひとつの新しい姿として示せたのではないかと思っています。

そして、個人的には、今、市町村合併の審議会の会長やっておりますので、これを受けたら、私としても「市町村が主役の元気な県づくり」をどうやっていくのか、大変だと思っております。全部に達成目標をつくるかどうか分かりませんけれど、評価するということになりますと、挑戦プロジェクトを担当する方々は大変努力をしなければならない。正に、実施段階でも非常にチャレンジングな考え方を示されたのではないかと思っております。

（古田委員）

実は、一点ずっと考えていて時間がなくて考えがまとまらなかった点がありまして、どうしても言っておきたいことがあります。

挑戦プロジェクトにもありますし、計画の展開の方向性の中にも農山村のことが十分書き込まれているので、いいかとも思っていたのですが、信州の大きな魅力として自然環境があり、それは書き込まれていて優先順位も高いと思います。

もうひとつ、農山村のスローフード（slow food：その土地の伝統的な食文化や食材）であるとか、カントリーコンフォート（country comfort：農村の快適さ）だとか、プロヴァンスな部分などの農山村の魅力も信州の魅力と思います。それから、本当においしい食べ物や、土と触れ合う機会があるということも、ひとつの魅力と思います。それは、いろいろなセクション、教育でもあり、産業でもあり横断的に全部にかかっているような大きなポイントであると思います。確かにそれは計画の中に書き込まれていますが、プロジェクトのテーマのどれに落とし込めるのか、どこから派生してくるのかずっと考えていまして、直接的に農山村の項目というのが見当たらないと思いますので、どこかに書いていただければと思います。

いまさら一つ増やせと言うのもめちゃくちゃな話なので、健康長寿のあたりであるとか、起業とか観光資源というようなところは産業でいいと思いますが、そのほかの食べ物を作っている、暮らしに貢献している部分、多面的機能のことが計画の展開には入っているんですが、プロジェクトでは落ちているところがあります。そういう、豊かな暮らしの場としての県の生命を支えるような役割がある農山村であり、また地産地消であるとか、豊かさを支える部分であると思いますので、そのへんをどこかに書き込んでいただけないかなと思いました。

（若林委員）

実は私は、この審議会とは別に、農業関係の振興審議会の会長をやらせていただいておりまして、今の古田委員からのご指摘、大変うれしく思いました。

農業関係でも、今お話がありました点については、プロジェクトという対応をとっております。その中で新しい方向といたしましては、農業関連産出額というような位置付けで、中山間地域のありようとか、農業と結びついた観光事業を入れ込んだり、教育と結びついたものを入れたり、いわば４次産業風のものをつくっていこうという方向を打出しております。

また、今おっしゃられた部分では、食育の推進と結びつけて健康問題へも対応してまいりたいと思っております。そのように農業関係では整理をしておりますので、古田委員の

提起はそれでうまくいくのではないかと思っています。私たちの領域の中だけではどうしてもできない部分もあると思いますが、県の挑戦プロジェクトを立ち上げる時にその点を整理していただければ道が開けてくると理解をしております。

（古田委員）
　そういうふうに、ここに含まれているという理解でいいと思うので、言葉を少し付け足すようにしていただいて、農山村のことも入っているということが分かればいいのではないかと思います。
　それだけではなく、食べるものを作る、それから地産地消ということ、それ自体が産業の創出だけではなく、市町村が主役の元気な地域づくりのような、地域づくりというところにも関わっているし、結局どこにも関わっていくような問題ですので、どこにでも構いませんので、入れていただければいいと思っております。

（小宮山会長）
　ありがとうございました。これも、検討させていただきます。
　今日も、いろいろなご意見をいただきました。そのへんを私のところで再度、最終の調整をさせていただくということで、ご了解いただけますでしょうか。ありがとうございます。
　それでは、私のところで最終の調整をいたしまして、後日知事に答申をしてまいりたいと思います。なお、先ほどから、この実効性に関する件、そして実際にどうしたらこの実効性が高まるのかということについて、いろいろなご意見も出ておりました。それは、非常に大事でございまして、そういう含みをもってですね、この答申をする際に県に対して、審議会としての意見を申し上げたいと考えております。そのときに知事にお渡しする文案を作成してみましたので、ご意見をいただきたいと思います。配付していただけますか。
（文案配付）
　このような文面で整理をしてみましたが、事務局から説明いただけますか。

（岩崎企画課長）
　お配りいたしましたＡ４の１枚でございますけれども、会長さんから県知事に答申をいただくときのかがみ、頭につける文章でございます。
　内容でございますが、上の段は、これまでの審議の過程を踏まえて作成されたものであるということを記載いたしまして、下の記のところでは、計画書にしていく段階で、このようなことに注意をしていただきたいという項目を五つ掲げました。
　１番目は、経済動向を始めとして、社会経済情勢が非常に不確定な要素が多いことから、それらの動向に十分に注意し適切に対応してくださいという点。それから二つ目は、可能な限り計画期間中の具体的な目標設定をして、その実現に努めてくださいということ。それから三つ目として、今後計画をつくる段階での施策の検討にあたっては審議過程で寄せられた多くの県民の皆さんの意見に配慮してくださいということ。四つ目として、計画期間中の広範の行政需要に的確に対応するために、行財政の効率的運営に努めてほしいということ。最後に、５点目として、今後の県づくりにおいて、それぞれの課題や方向性を県

民の皆さんや市町村の皆さんと共有して理解をいただいた上で、役割を分担しながら協力して進めていくことが、これまで以上に大切だということを踏まえまして、計画の趣旨、内容の周知に努めるということ。それから毎年度の目標管理の適切な実施を図ること。以上の五つの点について、意見を付していただいてはどうかと考えて、作成したものでございます。よろしくお願いいたします。

（小宮山会長）
　このような文面でいかがでしょうか。このへんをもう少し加筆しろとか、何かございましたらこの場でお願いしたいと思います。どうぞ、横道委員。

（横道専門委員）
　細かなことですが、最初のところの社会経済情勢を、社会経済情勢等と、「等」を入れていただきたい。というのは、たぶん国の動向とかですね、いろいろ制度が変更になりますので。

（小宮山会長）
　「等」を入れて、もう少し広くしておくということですね。ほかに何かお気付きの点は。松下委員、どうぞ。

（松下委員）
　先ほど後半で、何人かの方がご発言なさった、この策定に関わらせていただいた委員さんが、今後もこの計画中にですね、なんらかの形でさらに引き続いてお手伝いしたい旨のことを、どこかにうたい込めたらさらによろしいかと思います。

（小宮山会長）
　これについては、少し、案がございますよね。

（岩崎企画課長）
　今の松下委員さんのご意見ですとか今日いただいたご意見、実行段階でドゥの部分をしっかりということもございますので、そういった点については、事務局で少し検討させていただいて、会長とご相談させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（小宮山会長）
　いずれにしても、これからもご協力いただかないと困るものですから。よろしいでしょうか。
　それでは、１番の社会経済情勢等というのは、これを入れたいと思います。それでは、これを村井知事さんにお渡ししたいと思います。
　繰り返しになりますが、私のところで最終的な案を調整させていただきまして、このかがみを添えて、知事さんに答申をしたいと思います。
　用意した議題は以上ですが、その他、何かございますでしょうか。事務局のほうからよ

ろしいですか。
　それでは、時間もまいりましたので、これで閉めたいと思いますが、委員の皆様方には、昨年の12月から本日までお忙しい中をこの審議会において熱心にご審議をいただきまして、誠にありがとうございました。それから、地域の懇談会等にもご出席をいただいておりますし、本当にご協力をいただきましたことに重ねて御礼を申し上げます。おかげさまで、最終の調整を残すのみとなり、近日中に答申するめどがついたわけでございます。これからも、委員各位のご協力をいただくわけですが、とにかくここまでまいりました。これは、委員各位のご協力のたまものでございまして、厚く御礼を申し上げたいと思います。
　この計画に際しましても、もうしばらくご協力いただくわけですが、先ほどから出ておりますように、これをいかに実行していただくか、県のリーダーシップの下で、県民が一丸となって取り組む。とりわけ、この計画を立てた我々には、それなりの責任もあると思います。それから、思いも強いと思います。そういう意味では、直接、間接、いろいろな形でこの実行にご協力、ご支援をいただきたいと思います。
　簡単ではございますが、私からのお礼を込めたごあいさつとさせていただきたいと思います。
　本日の議事は以上でございますが、事務局のほうからも、それでは、局長、お願いいたします。

（和田企画局長）
　企画局長の和田ですが、審議会の終了に当たりまして、一言ごあいさつ申し上げたいと思います。
　皆様には、昨年の12月、知事から諮問を申し上げて以来、今日まで６回の審議会を開催させていただきました。その間、地域懇談会にもご参加いただきまして、大変精力的にお取り組みいただきましたことに心から御礼を申し上げたいと思っております。
　おかげさまで、答申につきましては、後日、会長さんから答申をいただく運びとなっております。短い期間での審議をお願いしたにもかかわらず、ご専門の視点、あるいは幅広い観点から、大変熱心にご議論いただきましたことに厚く御礼申し上げたいと思います。
　ある意味、この答申は私どもにとって大変重い内容となっております。この答申をいただきました後に、私どもでは、この答申に基づきまして、具体的な事業の肉付けをできる限り行っていきたいと考えております。
　５か年計画を策定した後、今日の話の中でも、その実施の面でのご提言、ご意見をたくさん頂戴いたしました。できる限り、この計画が実効性あるものとなるように、努力をしてまいりたいと考えております。またそれを通じまして、活力と安心のできる長野県づくりを進めてまいりたいと、このように考えている次第でございます。
　なお、委員の皆様に、計画の実施に関わります評価の段階におきまして、適宜改めてお集まりいただきまして、ご審議をお願いしたいと、このように考えておりますので、そのときにはよろしくお願いしたいと思います。
　以上でございますが、小宮山会長を始め委員の皆様のご労苦に、改めて感謝を申し上げまして、ごあいさつといたします。大変、ありがとうございました。

（小宮山会長）
　ありがとうございました。

（佐藤企画幹）
　以上をもちまして、長野県総合計画審議会を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。